

全国土地改良工事等学術技術最優秀賞の選定について

全国土地改良優良工事等審査会は、次の2件を2018年度全国土地改良工事等学術技術最優秀賞に選定しました。

2019年3月27日
公益社団法人農業農村工学会

□ 授賞者：株式会社 安藤・間

○対象工事：

2016年度東北農政局長表彰

請戸川特別災害復旧事業 大柿ダム災害復旧（その2）工事

○授賞理由：

東日本大震災で被災した大柿ダムの堤体復旧工事は、空間放射線率が高い帰還困難区域での施工であるため、作業効率も非常に落ちる防護衣・防護具等を使用し、被曝線量を可能な限り少なくする極めて厳しい労働条件下での施工である。また、堤体に多く発生した亀裂の確認と復旧といった気象条件も含めて緊張する日々で丁寧な作業が求められた。この困難な状況を克服するため、常に施工期間の効率化に配慮し、コアの施工管理にR I法を活用して施工管理時間の半減が図られた。また、空間線量率の低減を図るため、リップラップ材の表面と裏面を反転する工法などの創意工夫が図られるなど現場条件が極めて特殊で困難な条件の中で独自の工夫によりこれを克服した。

さらに、作業員や施設管理者等の被曝線量率低減のため、道路清掃や草刈りを行うなどの創意工夫も行われた。

今回の工事は、営農再開に向けて地元も大きな期待を寄せていた工事であり、農業用水の安定確保による新しい営農モデルの構築に向けた先導役となっている。

このようなことからこの工事は、施工法や安全管理における技術的先駆性が高く評価できる。

□ 授賞者：株式会社 大本組

○対象工事：

2018年度近畿農政局長表彰

和歌山平野農地防災事業 小田井水路（海神排水路）工事

○授賞理由：

農業生産に不可欠な農業用水を供給する施設として、農業発展に寄与してきた農業用ため池は、近年豪雨災害等により、決壊や破損被害が多発するとともに、管理や保全体制の脆弱化が懸念されている。そのため、国は現在、新たな法律を制定し、農業用ため池の適正な管理と保全に必要な措置を講じることとしている。このような中、小田井水路（海神排水路）工事は、都市化の進展による流出量の増加に起因した、ため池の決壊を防ぐため、排水能力の強化（ため池に放流工とバイパス排水路の新設により1.779 m³/秒の能力増）に加え、農業用排水路の溢水による湛水被害の軽減のため、排水先を小田井水路から海神川に変更するという新しい減災対策を担う工事である。

ため池の放流工工事では、ため池堤体部の品質確保と堤体部及び堤体と放流工の接合部における遮水性向上のため、「事前調査」、「堤体掘削」、「堤体盛土」の各段階において、各種の新技术を駆使して締固め度や遮水性において高い品質を確保した。

このような取組は、今後増加するため池改修工事に求められる盛土材料の確保、遮水性や施設との一体性等において先導役となるものであり、また、技術講演会等において成果を発表するなど普及にも努めていることは大いに評価できる。

このようなことからこの工事は、国土強靱化に向けてため池の補修工事における技術的先駆性が高く評価できる。